



## 同志社、立命にも向かい風

京都・滋賀の私立大一般入試の志願状況が22日までにほぼまとまった。長引く不況による国公立大志向、地元志向、併願数の絞り込みという「安・近・少」の傾向がみられ、同志社大や立命館大は志願者を大きく減らしている。文系、理系別では、不況でも就職に強いとされる理系や資格が取得できるコースの志願者が横ばいが増加する一方、文系で志願者数の落ち込みが目立っている。

### 一般入試志願傾向

同志社大は昨年比約6%減の3万8898人で、「志願者を地域別で見ると、遠方ほど減少の割合が大きい。不況による地元志向の影響を受けたのではないか」と分析する。文理別では、理系の理工学部は同0.6%減の8249人、生命医科学部は同3.1%増の2127人で微減または増加。一方、文系の文学部が同8.5%減の4037

「関関同立」のうち、関西

# 京滋私大「安・近・少」に苦戦

大、関西学院大はまだ出願を受け付け中だが、ともにほぼ昨年並みの志願者を確保できそうという。

京都産業大は昨年、益川敏英教授のノーベル物理学受賞の効果もあつて前期日程で志願者を30%以上増やした。今年はいくつかの文系学部で昨年を下回り、総合生命科学部の新設などで昨年並みの2万462人を確保した。

龍谷大は前期A日程で、経済学部（昨年比21%減）などの落ち込みが目立つ一方、社会福祉士などの資格取得に力を入れる社会学部で昨年比37.4%増、理工学部で25.5%増となり、全体で1.3%増の1万8224人だった。

（松尾浩道）

## 不況響き文系減少

2010年1月22日(金)京都新聞 夕刊より

「USAGI通信はメールでの送信も可能です。メールでの送信をご希望の方は、弊社ホームページ<http://3215.co.jp/>からメールアドレスをお知らせ下さい。」